

2014国際教養科 NEWS 9月(2)

AFSドイツから15歳の Chantal Melissa Neupert が本校に留学(8/26～来年7月)

WYSドイツから15歳の Danja HOERMANN が本校に留学(9/1～来年1月下旬)

国際交流基金 中国から16歳の陳美君さんが本校に留学(9/8～来年7月下旬)

ドイツ人2人、中国人1人の留学生が、夏休み明けから長野西高校に通っています。Chantalは1年7組国際教養科へ、Danjaは2年3組普通科へ、陳さんは1年1組普通科へ入りました。みんな元気にクラスに馴染んできているようです。

中国からの留学生陳さんは、この7月に帰国した劉牧言君に引き続き、国際交流基金・日中交流センターが実施する「心連心：中国高校生長期招へい事業」により留学しました。中国全土から31名の高校生が来日し、北は北海道から南は沖縄までの日本各地の高校で、9月から来年の7月下旬までの約11ヶ月間 留学生として学ぶことになりました。本校では、湖北省武漢市の武漢外国語学校から来た陳美君さんを受け入れることになりました。陳さんは日本語学習歴が4年でありながら、既に日本語検定2級の資格を持っていて、日本で12月に1級の試験に挑戦するというとても意欲的な留学生で、何事にも前向きで、本当に驚きです。日本語を流暢に話し、とても素直で明るく、好感の持てる生徒で、将来は、中国の高校を卒業し、日本の大学(東大)へ進学したいという大きな夢を持っているようです。中国の親元を離れ、日本の高校で学ぶことを決意し、はるばるやってきた彼女の大きな勇気と夢は、本校の生徒たちにもきっと大きな感動と刺激を与えてくれることと思います。これからの彼女の成長が楽しみです。



9/5(金)に東京の新宿にある国際交流基金で来日歓迎レセプションがあり、中国から来た31人の留学生が一人ひとり挨拶をしましたが、どの生徒も高校で日本語を学習していて、とても上手に日本語を話していました。この場には、中国大使館の方や日本の外務省の方も参加し、とても

和やかな雰囲気の中で来日歓迎レセプションを開催しました。初期に同プログラムを終了した学生達の中には日本の大学を卒業後、日本企業に就職した人もいます。当日は「心連心」OBを代表して第二期生として日本で学び、日本企業へと就職した閻亜光さんがマイク前に立ち、来日したばかりの9期生たちに向けて自身の体験も踏まえ、ジョークも交えながら様々なアドバイスを行ないました。最後に閻さんは「本当に貴重な経験。多くの友人を作って、自身の宝物を増やしてください」と語りかけました。留学生の彼女らは、きっといつか日本と中国を結ぶ架け橋となってくれるだろうと確信しました。

そして、9/8(月)が本校に初登校。陳さんも緊張していましたが、所属する1年1組(普通科1年)のクラスにとっても温かく迎えてもらい、すぐにクラスに溶け込んでいました。今は、英語班に入って熱心に活動に加わっています。



2年3組普通科に入ったダニヤは、日本ではまだ中学3年生の年齢なのですが、2年生の生徒たちに面倒を見てもらいながら、同じ宿題もしっかり丁寧に取り組んでいます。

9月4/5日の体育祭にも参加し、同じクラスの生徒たちも、温かく面倒を見てあげていました。

また、ドイツ語の時間だけは、2年生の国際教養科に混じって、ドイツ語の先生のアシスタントとして活躍してくれています。そのためクラスを超えて、ドイツ語選択の2年生とも友好を深めています。

班活動は山岳班に入り、近々黒姫山に登山することになっています。そのため、ドイツから登山靴も持参しているということで、とても楽しみにしているようです。24日から始まる2学期中間テストも、日独辞書を片手に、全ての試験を受験したいと、とても意欲的に取り組んでいます。



1年7組国際教養科に入ったシャンタルも、日本ではまだ中学3年生の年齢なのですが、やはりたった1人でドイツから日本に留学してきました。

日本語も自学自習で学んだだけなのですが、これから約1年間、周りの生徒たちのサポートを受けながらしっかりと学んでいく予定です。



毎日放課後は、熱心に弓道班の活動に取り組んでいます。